

IR Report 2008

第4期グループ報告書

2007年4月1日～2008年3月31日

株式会社マルハニチロホールディングス

証券コード:1334

世界に美味しいしあわせを



MARUHA NICHIRO



「世界の食に貢献する21世紀のエクセレントカンパニー」を目指して
2007年10月、マルハニチロホールディングスが誕生しました。

グループ理念

私たちマルハニチログループは誠実を旨とし、本物・安心・健康な「食」の提供を通じて、人々の豊かな生活文化の創造に貢献します。

グループビジョン

マルハニチログループは、水産・食品事業をコアとした世界の食へ貢献する食品企業グループ、21世紀のエクセレントカンパニーを目指します。
 マルハニチログループは、常に新しい食の世界を提案する価値創造型企業を目指します。
 マルハニチログループは、経営資源の選択と集中によるグループの全体最適化を進めることで、企業価値の最大化を目指します。

スローガン

世界に美味しいしあわせを

本当においしいものに出会ったときに、人はこころの底からしあわせだと感じる。知らず知らずのうちに、顔いっぱい笑顔がひろがっている。
 私たちマルハニチログループは、そんな「おいしいしあわせ」を、この地球上のすべての人々に届けたいと思っています。
 ただ単に、空腹を満たすための食品ではなく、厳選された素材と心のこもったていねいな調理・加工によって生み出される本当のおいしさ。
 そして、それらが生み出す満ち足りたしあわせな世界…。
 これからはじまるマルハニチログループは、食を通じて世界中に、そんな「おいしいしあわせ」をお届けします。

2008年

4月

マルハの調達力×ニチロの開発力=マルハニチログループの総合力

マルハニチログループの再編が始まっています。

【マルハニチロホールディングス新グループ体制】



【経営統合の効果について】
 21世紀のエクセレントカンパニーを目指して

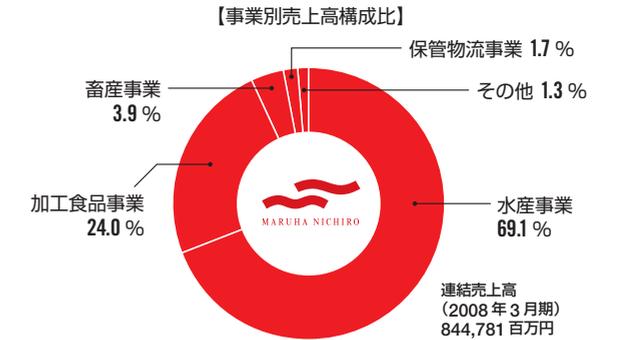


世界的な水産物需要の高まりをビジネスチャンスとして、戦略セグメント単位のグループ経営をさらに進化させてまいります。

水産物の調達から加工・販売まで一貫した機能を保有するマルハニチログループの強みを生かし、「守り」の経営から「攻め」の経営への転換を図ってまいります。

マルハニチログループ4つの事業

マルハニチログループの事業は大きく、「水産」「加工食品」「畜産」「保管物流」の各事業から成り立っています。各事業はその領域ごとに「事業ユニット」を配し、統一的な戦略のもと事業価値の最大化を図っています。2008年4月1日にスタートした4つの主要事業会社（(株)マルハニチロ水産、(株)マルハニチロ食品、(株)マルハニチロ畜産、(株)マルハニチロ物流）による新しい企業グループ体制とともに、本格的な事業再編へ向けた新たな一歩を踏み出しました。4つの主要事業会社はそれぞれの事業の中核となり、マルハニチログループ全体の価値の最大化と成長を図ってまいります。



水産事業

目指せ「世界に冠たる水産物のプロデューサー」

- 漁業・養殖ユニット
- 北米ユニット
- 水産商事ユニット
- 荷受ユニット
- 戦略販売ユニット

世界中で水産物に対する需要が高まり、マーケットがグローバル化するなか、最大規模の水産物取扱量を誇る企業として、漁業・養殖・買い付け・加工・販売までの一貫したサプライチェーンを構築しています。魚を見極めるプロの視点で多様化するニーズに積極的に対応。従来型の獲る漁業にとどまらず、「つくり、育てる漁業」の技術開発にもいち早く取り組み、安全・安心・高品質な水産物の安定的な調達と供給に努めています。



マルハニチロ水産、大洋エーアンドエフ、大都魚類、Westward Seafoods, Inc.、Peter Pan Seafoods, Inc. 等

加工食品事業

開発・生産・販売の一貫体制で付加価値の高い商品づくり

- 冷凍食品ユニット
- 加工食品ユニット
- 化成品ユニット
- アジア・オセアニアユニット

世界中から厳選素材を調達しているマルハニチログループは、その素材を生かした「おいしいしあわせ」を提供する食品メーカーとしても多彩な提案を行っています。開発・生産・販売まで一貫体制のもと、冷凍食品、缶詰、魚肉ソーセージ、レトルト食品、健康食品など、数々の人気商品を輩出。国内をはじめ、中国やタイなど、東南アジアに広がる生産拠点を拡充し、より付加価値の高い商品づくりに挑んでいます。



マルハニチロ食品、アクリフーズ、ニチロサンフーズ、アイシア、Kingfisher Holdings Limited 等

畜産事業

開発・生産・加工・販売のグローバルネットワーク

- 畜産ユニット

安全・安心・おいしさを基本に、牛肉・豚肉・鶏肉および食肉加工品を国内外で生産・調達・販売しています。生産・加工に携わる特定サプライヤーとの取り組みを重視し、顧客のニーズに合わせた提案と商品開発を推進。また、飼料原料としての魚粉（フィッシュミール）の調達においてもグローバルな展開を進めています。新たな共同開発・販売もスタートさせ、より強固なネットワークの構築を目指します。



マルハニチロ畜産、ニチロ畜産、マルハミートアンドデリカ 等

保管物流事業

58万トンの庫腹量を誇る総合物流サービス

- 保管物流ユニット

冷凍品の保管や円滑な物流に欠かせない冷蔵倉庫。保管物流事業は全国に38拠点もの冷蔵倉庫ネットワークを展開し、水産・加工食品・畜産の事業を支える重要な役割を担っています。保管・収容能力は60万トンにせまり、国内有数の規模と機動力を誇ります。グループ全体の流通戦略につながる中枢であり、一貫物流体制による「総合物流サービスの提供」を目指し、さらなる強化を進めています。



マルハニチロ物流 等

価値創造型企業 への変革。

統合による企業価値の最大化に 挑戦していきます。



代表取締役社長

五十嵐 勇二

代表取締役会長

田中 龍彦

株主の皆様におかれましては、ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年10月、マルハとニチロは経営統合を行い、マルハニチログループとして新たな舵を切りました。水産・食品事業を取りまく環境は、今、急激な変化をとげております。食の安全・安心問題を筆頭に、少子高齢化社会の到来による食市場の成熟化、世界的な水産物需要の拡大、燃油や原料全般の調達コストの高騰など、大変厳しい環境となっております。

一方で、そのような舵取りが難しい経営環境は、新しいマルハニチログループにとっては、真にグローバルな水産食品企業グループへ生まれ変わるための大きなチャンスであるとも認識しております。グローバルな水産資源へのアクセスとその調達力に強みを持つマルハと、冷凍食品に代表される加工食品の開発力に強みを持つニチロが統合したことにより、日本国内における水産物サプライチェーンの構築とともに、世界市場への挑戦が視野に入っております。機能の相互

補完を行いながら、規模の拡大と生産や販売体制のさらなる効率化を実現し、新たな事業領域の創出を目指しております。

そのための第一歩として、今年4月、「水産」「食品」「畜産」「保管物流」の4つの主要事業会社による新しい企業グループ体制を構築いたしました。この主要事業会社を中心に、調達から加工・販売まで一貫した機能を最大限に生かし、コア事業である水産と食品に経営資源を集中して成長戦略を実現してまいります。

本年2008年度は、統合による新たなグループの創業初年度と位置づけ、売上高9,300億円、営業利益190億円、経常利益140億円を計画しています。この計画を基に、新たな中期三ヵ年経営計画を作成し、皆様に公表する予定にしております。

マルハとニチロはこれまで、それぞれ100年を超える歴史の中で幅広い事業領域で多様な商品群を生み出し、それぞれのブランドのもと、日本市場のみならず世界各国の市場へ販売してまいりました。マルハニチロとなった今、「食」のプロフェッショナルとして、



「食の安全・安心」を基盤としたブランド力のさらなる強化に努めてまいります。そして、マルハとニチロとが協働して食の可能性を最大限に引き出し、限りある資源により高い付加価値を添えるとともに、「魚」をコアにした世界の「食文化」の創造に貢献できる水産食品企業グループとして、「世界に美味しいしあわせ」を届けていきたいと考えております。これからのマルハニチロにどうぞご期待ください。

株主の皆様におかれましてはなにとぞ、これまで以上のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2008年6月

強力な水産・食品の生産供給ネットワークが誕生。

水産物を中心に、畜産、農産物を世界70カ国以上から買付し、日本市場に供給するだけでなく、アジアで加工し、製品を日本、欧米、そしてアジアの市場へ。かねてより推進している「トライアングルオペレーション」が統合によりさらに強固なものになりました。スケールメリットと効率を重視した新体制で、調達、製造加工、販売まで、日本市場と世界市場が有機的に連携する体制が整いました。



グローバルオペレーション
 (関係会社数)

海外 98 拠点

国内 106 拠点

●: 主な海外法人、駐在員事務所

2008年3月期

連結売上高合計	8,448 億円
海外売上合計	908 億円
前年比	135.5 %
連結売上比	10.8 %
国内売上合計	7,540 億円

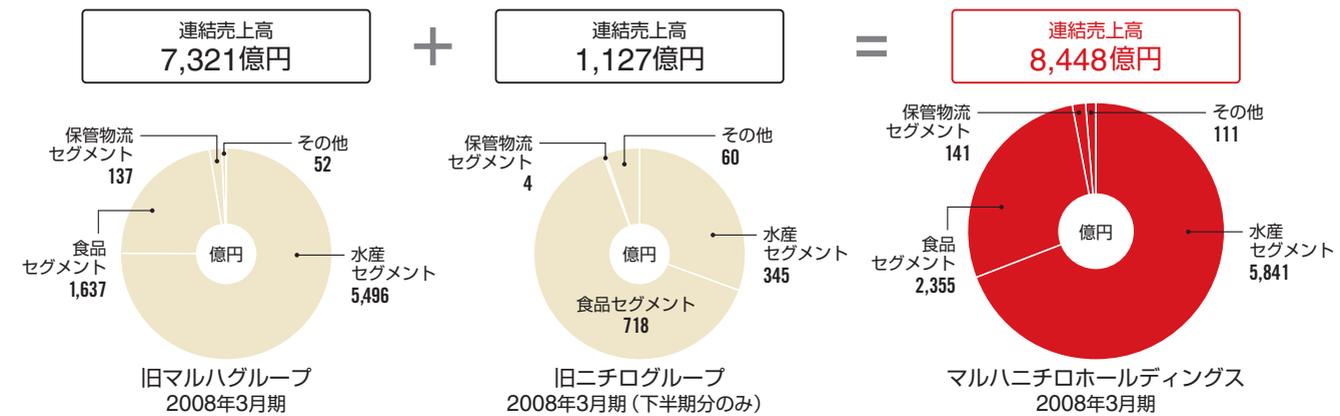
※ 2007年10月の経営統合により、上記には、旧ニチログループの2008年3月期下半期分が含まれております。

マルハニチロの多彩な商品群



強い分野は、より強く。 魚をコアに、多彩な事業を展開します。

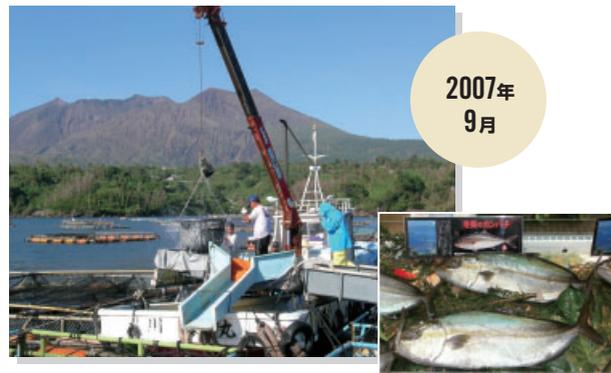
調達力のマルハと、開発力のニチロ。それぞれ異なる得意分野を持つ両社の統合により、さまざまな可能性が広がっています。サケ、カニ、すりみなどの水産物から、「マルハ」ブランドの魚肉ソーセージ、ちくわや鯖・サンマなどの青物缶詰、カップゼリー、そして「あけぼの」ブランドのサケ・カニ缶詰や、冷凍食品など、取り扱い商品のバラエティーが限りなく広がり、魅力ある新製品の投入も期待されます。



※畜産事業は食品セグメントに含まれます。

国内、高級魚養殖事業の拡大

資本参加を行い、カンパチ養殖事業を拡大いたしました。



2007年
9月

所在地: 鹿児島県内桜島周辺に4カ所、指宿に1カ所、計5カ所の養殖漁場。
事業の内容: カンパチを主力に生産し、年間を通して365日活魚出荷を行い、安定的な供給を行っています。
設備: 260台(1台8m)の養殖生簀を展開。

2007年9月、株式会社桜島養魚(カンパチ養殖)への資本参加を行いました。一年を通じて活魚の安定出荷を行っている桜島養魚では、年間約80万尾のカンパチ生産能力を持ち、当社グループのカンパチ養殖事業は生産能力130万尾、国内シェア約10%に上り、事業の基盤拡充が図られました。また、輸出用フィレー加工施設の設置を検討しており、魚食文化の拡がりが続く欧州市場向け輸出をはじめとするグローバル戦略も視野に、養殖魚の安定供給体制を強化してまいります。

海外養殖事業の新拠点として

マレーシアにおけるエビ養殖会社の買収について



2008年
2月

所在地: マレーシアバハ州ベカン郊外(マレー半島東岸 中央部)
事業の内容: エビ養殖・冷凍加工・販売
設備: エビ養殖池(1,400haの敷地に460の養殖池)、孵化場、冷凍加工場、冷蔵庫(保管能力450トン)

2008年2月、マレーシアでエビ養殖業を営むアグロベスト社の全株式を取得いたしました。アグロベスト社は品質、衛生管理面で高い評価を得ている現地企業で、良質な養殖エビの生産から冷凍加工までを一貫体制で行っております。稚エビの孵化・養殖から加工・販売までのトレーサビリティの確立した事業の強化、天然エビと養殖エビを組み合わせた日本国内市場向け供給基盤の強化、さらには今後の海外市場向けの販売拡大が期待されています。

国内、主食冷凍食品ラインを集約

大江工場生産設備の増設を行いました。



2007年
5月

所在地: 山形県西村山郡大江町
生産能力: 冷凍麺類約12,800トン/年(建設前、約11,400トン/年)
冷凍米飯類約11,800トン/年
工場計約24,600トン/年

2007年5月、大江工場の大幅な増設を行い、敷地面積が1.9倍、延床面積は2.9倍となりました。増設にともない、旧久里浜工場の冷凍米飯類の生産が移管され、冷凍麺だけでなく冷凍米飯等主食冷凍食品の生産ラインが大江工場に集約されたこととなります。国内における市販用冷凍食品の主力生産拠点として、今後とも、当社グループの冷凍麺、主食冷凍食品の生産能力の強化拡充に努めてまいります。

海外、冷凍野菜生産の新拠点

黒龍江日魯北大食品有限公司を設立いたしました。



2007年
7月

所在地: 中国黒龍江省鶴崗市
生産能力: 約4,000トン/年(第1期建設)
工場面積: 約5,000㎡
農地: 3,000ha(東京ドーム約600個分)

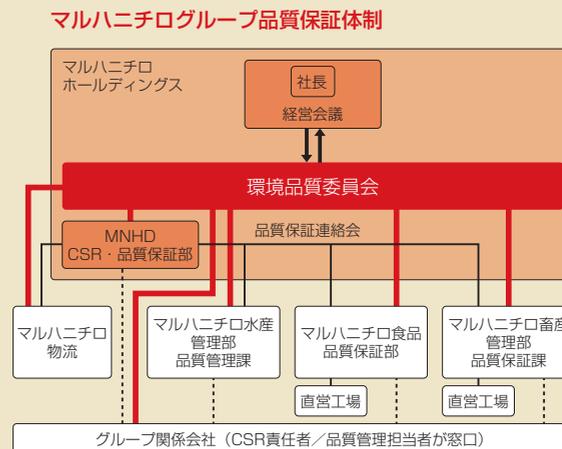
2007年7月、合併会社となる黒龍江日魯北大食品有限公司を中国に設立いたしました。中国冷凍野菜生産の主力工場として、地域に適した品種・栽培技術の導入により、さらなるおいしさを追求いたします。また、当社グループ独自の生産管理システム(キャリアコントロールシステム:CCS)による徹底管理で、食の安全に対する施策強化を行ってまいります。2007年10月には、種子の管理から行って開発した商品「こだわり 極味(きわみあじ)シリーズ」(えだまめ、茶まめ)が発売されました。

食の安全・安心への取り組み。

近年、食にまつわる事件、事故が相次ぎ、株主の皆様の「安全・安心」に対する関心やご要望が特に高まっています。マルハニチログループでは、「安全・安心」が従来より「グループ理念」に盛り込まれており、今後はこれをさらに強化し、グループの「安全」への取り組みをお伝えすることも、皆様に「安心」をお届けする大事な一つの手段と考えています。

品質に対する取り組み

国内外を問わずマルハニチログループが取り扱う製品の生産工場には、品質管理の専門知識を有した監査担当者を派遣して工場監査を実施し、継続的な品質改善活動の指導を行っています。工場監査では、法令違反や商品事故を防止するために、設備、記録文書、管理体制等の面から工場を評価し、監査基準を満たさない工場とは取引を行わないこととなっています。また、内部監査だけでなく、第三者機関による外部監査も実施しています。



品質PDCA活動

マルハニチログループで進めている品質PDCA活動とは、品質を向上させるために毎年継続的に改善を行う活動のことです。改善の計画（Plan）を立て、それを実行（Do）し、定期的に結果を点検・評価（Check）。その評価結果を基に改善・処置（Act）を実施し、次の計画に生かします。この品質PDCA活動を休むことなく継続することにより、品質の向上に努めています。

ISO認証の取得

マルハニチログループでは、グループ全体でISOの取得を進めています。現在、ISO9001（品質マネジメントシステム）は15事業所、ISO14001（環境マネジメントシステム）は15事業所で認証を取得しています。さらに、食品安全マネジメントシステム（ISO22000）の認証を5事業所と本社生産関連部門で取得し、つくばの分析検査室では試験所認定（ISO17025）を取得しています。

※ ISOとは International Organization for Standardization の略で「世界標準化機構」のこと。

消費者の皆様への情報提供の取り組み

マルハニチロ食品では、消費者の皆様へ原料情報をわかりやすく・正確にお伝えするための取り組みを検討しております。中国の天洋食品事件をきっかけにして、冷凍食品やレトルト食品に使用されている主原料の原産地に関するお問い合わせを多数いただいております。その公表に対する要望にお応えるために、最初の取り組みとして原料原産地情報をホームページ上などで公開できるように準備を進めています。パッケージに直接原産地の表示をすることも考えておりますが、原料の変更時に発生する包装資材のロス等の費用を最小化することや法的制約を満たすことなどが新たな課題になっています。このような課題を乗り越えて、安全・安心への取り組みをご理解いただけるように情報提供に努めてまいります。



中国のキャリアコントロールシステム（CCS）

中国における冷凍野菜の生産では特に、安全・安心のため、専用農場での栽培、農薬の一元管理、生産工場と中国および日本のマルハニチログループ検査施設による残留農薬検査を実施しています。また種まきから製品までの生産履歴のデータベース化により、「農場から食卓まで」のトレーサビリティを確保し、徹底した品質管理を行っています。



マルハニチロホールディングスのCSR

CSR

2007年はCSR元年。

CSR経営の基本的理念として、2006年12月「CSR経営推進宣言」を制定、「社会から求められ、信頼される企業グループを目指す」ことを宣言しました。

■CSR経営推進宣言

「社会から求められ、信頼される企業グループを目指す」

■CSR経営指針

1. 健全な企業活動に努め、オープンでフェアな企業グループであり続けます。
2. 食品を扱う企業グループとして環境に留意し、常に「安心」と「健康」を提供します。
3. グローバルな企業グループとして、世界の国や地域の文化を尊重し、社会との共生を図ります。

適正な利潤をあげ、持続的な経済活動を行うことをベースに、マルハニチログループは食の提供を事業基盤とする企業グループとして「食の安全・安心」を今後とも徹底的に追求してまいります。

マルハとニチロの**コラボレーション** 商品が続々登場。

マルハニチロの総合力で“商品力”をパワーアップしていきます。
これからも全国の食卓へ、安全で安心な「おいしいしあわせ」をお届けします。

得意分野を生かしたベーシックな 新商品で初コラボに挑戦。

マルハとニチロの融合が、市販用冷凍食品の分野で始まっています。

その先駆けとなったのは、2008年3月に初のコラボレーション商品として新発売された『あけぼのブランド』の「2種ちくわ天ぷら」です。

両社の得意分野を最も効果的に生かすことのできる2つの生産工場を選定した結果、ちくわの生産の優れたノウハウを持つマルハの仙台工場と、フライ類等の冷凍食品の生産拠点であるニチロの石巻工場とのコラボレーションが決定しました。仙台工場でちくわを生産し、それを石巻工場で天ぷらに揚げ、味付けを施し、冷凍食品として最終の加工を行うことになったのです。

約半年間にわたり両社による試行錯誤が繰り返されました。多くの関係者の努力と工夫のもと“ちくわのプロ”であるマルハのノウハウと、商品開発におけるニチロのノウハウが結集し、商品化に最適なちくわの

開発が進められていきました。ニチロは以前にもちくわの天ぷらの生産に着手したことがあり、その時はちくわの原価が採算ベースにのらず断念したという経緯がありました。しかし、今回はマルハが開発パートナーとなったことで、原価面の問題をクリアすると同時に、開発面においても最強のタッグを組むことができるようになったのです。

今回の開発において最も難しかったのは、“冷めてもやわらか”なちくわの食感を出すことでした。通常、いったん揚げたちくわは冷めると硬くなってしまいます。天ぷらに加工しても弾力性のある食感になる原料配合の検討や、弁当総菜として使いやすいコンパクトサイズにするなどの数多くのテストが重ねられ、新商品に適した専用ちくわが誕生。“冷めてもやわらか”



な食感の「ちくわ天ぷら」がとうとう実現しました。そして、3月の発売開始以来、好調な販売が続いています。

原料調達の優位性を生かし、 既存商品でも共同開発が始まりました。

『あけぼのブランド』が得意とする市販用冷凍食品といえば、「いか天ぷら」「白身&タルタルソース」などに代表される弁当総菜。他にも、米飯、麺などさまざまな人気アイテムがありますが、それら既存商品において、コラボレーションの検討、取り組みが始まりつつあります。

その一つは、「いか」や「白身魚」といった水産原材料のグループ内調達です。他社から仕入れていた水産原料を、今後はマルハニチログループ内で調達しようというもの。水産物のトレーサビリティ、品質、調達量、価格といった情報をグループ内で共有し、商品に適した原材料の調達をグループ内で行うことで、世



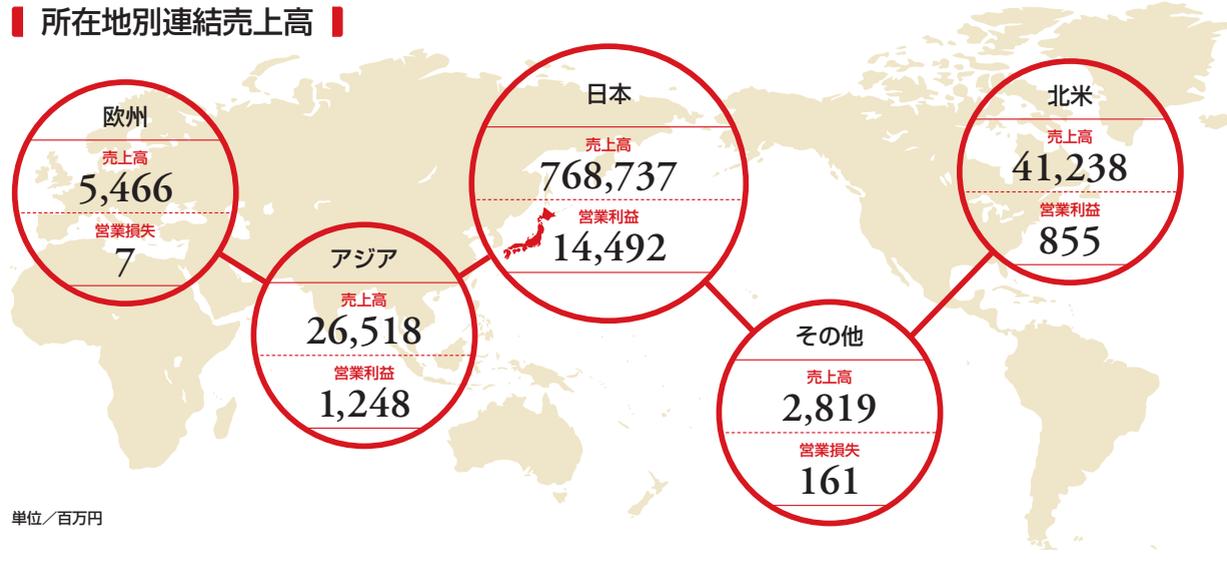
界的に買付競争が激化している水産物の安定的な供給が可能になり、コスト削減ばかりでなく品質面における安全・安心もいっそう高まります。

調味料の分野でもコラボレーションが生まれつつあります。マルハ調味料事業で取り扱う水産物由来のカツオエキスやカキエキスなどを、『あけぼのブランド』の市販用冷凍食品の中で積極的に使用していくチャレンジを始めています。既存の味を損なわないよう今後さまざまな開発と工夫が必要ですが、食べ物の味とおいさを左右する重要な要素の一つである調味料。それらを自社グループ内でまかなう意義はとて大きく、今後はより多様な取り組みが期待されています。

主要セグメント別業績

水産	食品	保管物流
売上高 584,133 百万円	売上高 235,510 百万円	売上高 14,088 百万円
前年比 5%増 ↗	前年比 48.5%増 ↗	前年比 3.2%減 ↘
営業利益 8,581 百万円	営業利益 6,238 百万円	営業利益 1,095 百万円
前年比 10.8%増 ↗	前年比 20.4%増 ↗	前年比 28.5%減 ↘

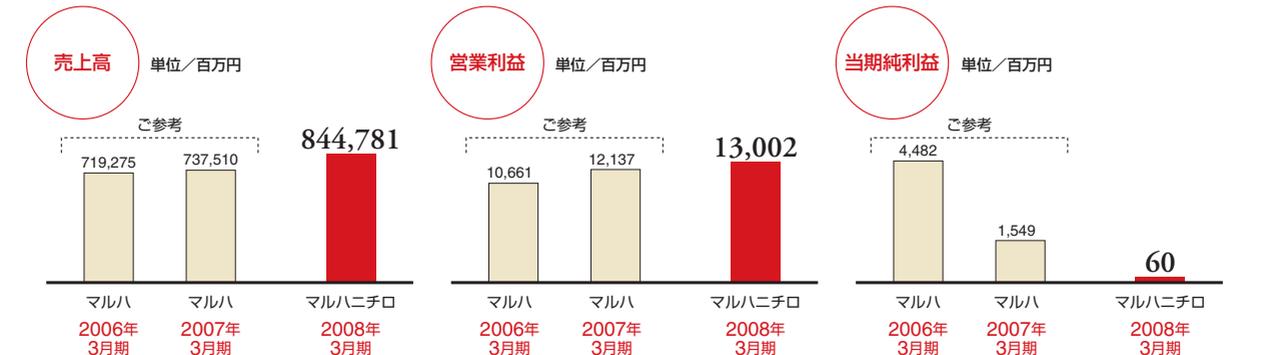
所在地別連結売上高



主な経営指標

	マルハグループ本社 (ご参考)		マルハニチロホールディングス
	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期
売上高	719,275	737,510	844,781
営業利益	10,661	12,137	13,002
経常利益	12,084	11,093	7,316
当期純利益	4,482	1,549	60
総資産	384,577	384,275	550,709
純資産	44,122	59,673	93,146
1株当たり当期純利益(円)	13.57	4.28	△0.40
1株当たり純資産(円)	79.34	109.82	129.68
自己資本比率(%)	11.5	12.0	13.9

※ 2007年10月の経営統合により、マルハニチロホールディングス2008年3月期連結業績には旧ニチログループ2008年3月期下半期の連結業績が含まれております。



■ 会社概要 (2008年4月1日現在) ■

会社名 株式会社マルハニチロホールディングス
 所在地 東京都千代田区大手町 1-1-2
 設立 2004年4月(2007年10月に、株式会社マルハグループ本社から株式会社マルハニチロホールディングスに商号変更)
 資本金 310億円
 グループ会社 マルハニチロ水産、マルハニチロ食品、マルハニチロ畜産、マルハニチロ物流、マルハニチロマネジメント、大都魚類、神港魚類、大洋A&F、ニチロサンフーズ、アクリフーズ、アイシア、Westward Seafoods、Peter Pan Seafoods、Kingfisher Holdings その他

■ マルハニチロホールディングスについて ■

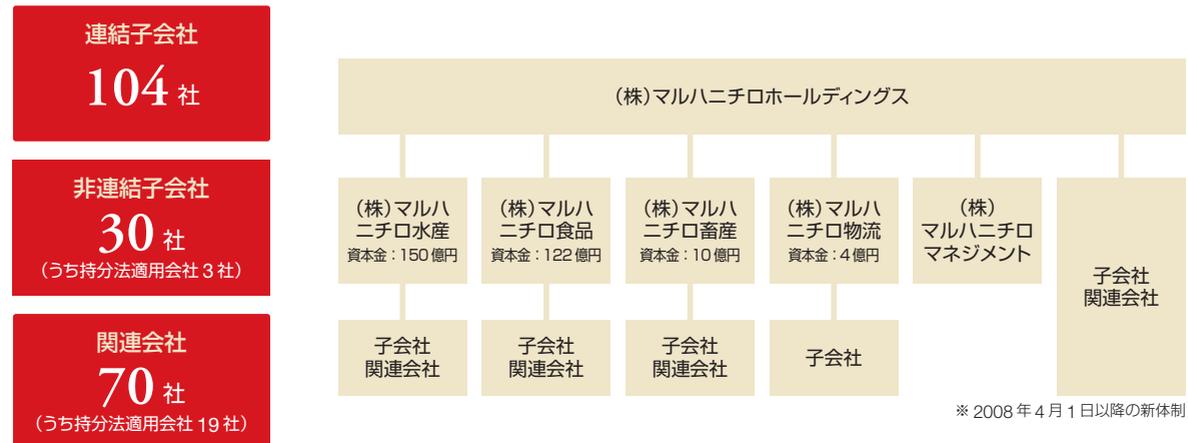
株式会社マルハグループ本社は2004年(平成16年)4月に、マルハグループの純粋持株会社として設立しました。2007年(平成19年)10月に株式会社ニチロと経営統合し、商号を株式会社マルハニチロホールディングスに変更。グループ経営の推進を図り、経営資源の最適化を実現、グループ企業価値の最大化を目指します。

■ 役員体制 (2008年6月25日現在) ■

役職	氏名
取締役会長(代表取締役)	田中 龍彦
取締役社長(代表取締役)	五十嵐 勇二
取締役副社長(代表取締役)	中部 謙
専務取締役	久代 敏男
常務取締役	河添 誠吾
常務取締役	青木 信之
取締役	伊藤 滋
取締役	坂井 道郎
取締役	渡辺 淳
取締役	根本 渡
取締役	神田 和明
取締役	安西 眞郎
社外取締役(非常勤)	長野 鷹士
常任監査役	坂口 正泰
常任監査役	永井 俊行
監査役(非常勤)	八幡 秀昭
監査役(非常勤)	中部 由郎

■ グループ会社 (2008年3月31日現在) ■

204社(国内106社、海外98社)



※ 2008年4月1日以降の新体制

■ WEBサイトリニューアル ■

<http://www.maruha-nichiro.co.jp/>

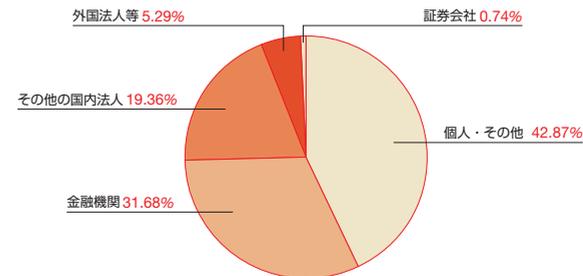
マルハニチロホールディングスのWEBサイトがリニューアルしました。企業情報・IR情報の充実とともに、より広くマルハニチログループを知っていただくための工夫も満載です。新しいWEBサイトをぜひご覧ください。



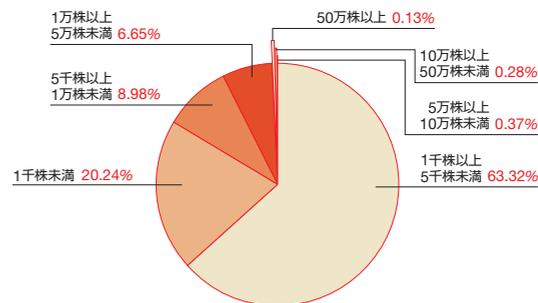
株式の状況 (2008年3月31日現在)

発行可能株式総数	1,200,000,000株
普通株式	1,170,000,000株
第一種優先株式	26,000,000株
第二種優先株式	4,000,000株
発行済株式の総数	519,604,884株
普通株式	508,574,884株
第一種優先株式	7,030,000株
第二種優先株式	4,000,000株
株主数	64,480名
普通株式	64,480名
第一種優先株式	17名
第二種優先株式	1名

所有者別株式数分布状況 (普通株式)



所有数別株主数分布状況 (普通株式)



大株主 (普通株式)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
大東通商株式会社	51,819,211	10.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	25,897,000	5.09
農林中央金庫	17,442,720	3.43
株式会社みずほコーポレート銀行	15,986,500	3.14
日本生命保険相互会社	13,201,855	2.60
東京海上日動火災保険株式会社	11,766,425	2.31
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,099,000	2.18
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	9,424,000	1.85

※出資比率は、普通株式の発行済株式総数から自己株式(108,553株)を控除して計算しております。

株主優待

当社では、株主の皆様の日頃のご愛顧におこたえするとともに、当社株式を長期に保有していただける魅力あるものにするを目的として株主優待を実施しております。

1 対象株主様と実施の内容

毎年3月31日の最終の株主名簿または実質株主名簿に記載または記録された1千株(1万円)以上を保有していただいている普通株主の皆様を対象として、年1回実施しております。

2 優待の内容

当社グループで取り扱っている商品、サービスの無償提供を行います。



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会の議決権 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 そのほか必要があるときはあらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒137-8081
および電話連絡先	東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-232-711
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告方法	電子公告の方法によります。(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)
公告掲載の当社ホームページアドレス	http://www.maruha-nichiro.co.jp/

株式諸手続きのご案内

住所変更、単元未満株式買取請求、単元未満株式買増請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人三菱UFJ信託銀行のフリーダイヤルをご利用ください。
☎0120-244-479 (24時間受付：自動音声案内)
(証券保管振替制度をご利用の方は、お取引口座のある証券会社等へご照会ください。)

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ですが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 1334

いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、「いいかぶ」と4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

※本書は環境に配慮した用紙を使用しています。